

## 日米の中堅・若手世代の専門家によるネットワーク形成

～第6期生の訪日研修を実施、山口・福岡を訪問～

国際交流基金（JF）は、米国における知日層育成取り組みの一環として、モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団との共同で「日米次世代パブリック・インテリクチュアル・ネットワーク事業」を実施しています。今般、「日米次世代パブリック・インテリクチュアル・ネットワーク事業」の一環として、第6期生を対象に一週間の日程で訪日研修を行います。



2022年研修では京都・大阪を訪問



2022年研修におけるレクチャーの様子

本事業は、近い将来において日米の政策・世論形成に関与することが期待される中堅・若手世代の専門家（研究者・実務家）を対象にした約3年間の研修プログラムです。日米間の多岐に渡るアジェンダについて理解を深め、また同時に緊密な人的ネットワークを形成するための機会とすることを目的としています。参加者は、プログラムを通じて政策関係者によるブリーフセッションやさまざまな研修、会合に参加し、日本や日米関係をとりまく課題についての理解を深め、将来は積極的に政策提言を行うことが期待されます。

訪日研修では、東京で政策関係者らとの意見交換を行います。山口では、米国海兵隊岩国基地を視察するほか、福田良彦岩国市長と面談します。北九州では、認定特定非営利活動法人抱樸などを訪問し、地域におけるソーシャルセクターの取り組みを視察します。

### 記

事業名称：日米次世代パブリック・インテリクチュアル・ネットワーク事業 第6期訪日研修

主催：モーリン・アンド・マイク・マンズフィールド財団（助成：国際交流基金）

訪日研修期間：6月5日（月）～11日（日）

プログラム：6月5日（月）～7日（水）	国会議員、外務省、米国大使館、NPO 関係者らと意見交換
6月8日（木）	岩国基地視察
午後	福田良彦岩国市長と面談
6月9日（金） 午前	宇部市役所訪問など
午後	認定特定非営利活動法人抱樸、 地球環境戦略研究機関北九州アーバンセンターを訪問など

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)



THE MAUREEN AND MIKE  
MANSFIELD FOUNDATION

Connecting People & Ideas to Advance Mutual Interests in U.S.-Asia Relations



プログラム第6期生：

秋山 訓子	朝日新聞社 政治記者
ベンジャミン・パートレット	マイアミ大学政治学 助教授 准教授
ポール・クリステンセン	ローズハルマン工科大学 人類学 准教授
チャールズ・クラブツリー	ダートマス大学 政治学 助教授
金森 サヤ子	大阪大学 全学教育推進機構 准教授
ニック・カプール	ラトガース大学カムデン校 歴史学 准教授
久間木 宏子	ハーバード大学ライシャワー日本研究所 アソシエート
トム・フォン・リ	ポモナ・カレッジ 政治学 准教授
トム・メイソン	日米交流財団 事務局長
松原 実穂子	NTT チーフ・サイバーセキュリティ・ストラテジスト
チャールズ・T・マククリーン	イェール大学東アジア研究所 国際交流基金ポスドク・アソシエート
森本 涼	プリンストン大学 人類学 助教授
シンディ・スターツスリダラン	アリゾナ州立大学 人類学 助教授

※略歴は下記をご参照ください。

## 秋山 訓子 Noriko Akiyama



現職以前、朝日新聞社発行の週刊誌「AERA」で政治部編集長補佐、政治記者、記者を歴任。朝日新聞女性初のシニア政治記者と政治部編集長補佐である。非営利団体で働く女性、日本のジェンダー政治、女性官僚、市民社会のリーダー、日本の政治史ガイド、日本初の女性プロレスラー小畑千代の伝記など、8冊の本を執筆。2018年に特定非営利活動法人新公益連盟第1回ソーシャルジャーナリスト賞を受賞。また、フィッシュ・ファミリー財団主催の日本人女性向けプログラム「Japan Women Leadership Initiative」（2018）や米国務省の主たる専門家交流プログラムであるインターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム（2016）の参加者でもある。ロンドン大学経済政治学院で帝国・植民地主義・グローバリゼーションにおける理学修士号、東京大学で社会学の学士号を取得。

---

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

## ベンジャミン・バートレット Benjamin Bartlett



研究テーマは比較サイバーセキュリティ政策、東アジアのサイバーセキュリティ、サイバーセキュリティの能力向上に関する国際協力など。『Journal of Cyber Policy』や『Asia Policy』などに寄稿しており、最近では、『Oxford Handbook of Japanese Politics』の日本におけるサイバーセキュリティに関する章を担当した。また、2022年に全米人文科学基金（NEH）による日本上級社会科学フェローシップを受領。カリフォルニア大学バークレー校で政治学の博士号、トロント大学でコンピュータサイエンスの修士号を取得した。

## ポール・クリステンセン Paul Christensen



これまでの研究テーマは、東京のアルコール依存症や薬物依存症回復グループとの民俗学的フィールドワークなど日本における依存症・回復に関する研究がある。それに加え、ハワイ文化、ブラジル文化、ジェンダーと男性学なども含む。最近では、人間がどのように意義や目的を見いだす生活を概念化しかつ創造するかを広く考察するエスノグラフィック・プロジェクトの研究を東京にて始めた。ワシントン大学にて学士号、ハワイ大学マノア校にて博士号を取得。

## チャールズ・クラブツリー Charles Crabtree



研究テーマは、差別の政治学、社会学、経済学である。以前、アメリカの文脈を中心に研究してきたが、現在は、重要にもかかわらず十分に検証されていない日本政治に幅を広げている。実験と自動テキスト解析により、民族、性別、出身国、人種、宗教によって人々が他者を異なる扱いをする理由をより深く理解することを目指している。コロラド大学で歴史学の学士号、ノースウェスタン大学で公共政策と行政学の修士号、ペンシルバニア州立大学で政治学の修士号、ミシガン大学で政治学の博士号を取得。

## 金森 サヤ子 Sayako Kanamori



現職以前、大阪大学 CO デザインセンター・学際科学国際高等研究所の特任准教授、日本国は際保健医療学会（JIGH）の研究部長、外務省国際協力局国際保健政策課の保健専門官、財務・会計管理を専門とするビジネスコンサルタントを務めた。研究テーマは保健政策、グローバルヘルス外交、グローバルヘルス人材育成、ヘルスケアビジネスなど。過去10年間、中学生を含む幅広い一般市民に向け、講演や各種プログラムを提供しており、新興国を中心とした官民連携によるヘルスケアプロジェクトのマネジメントやコンサルティングも行う。筑波大学で生物科学学士号、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院で医療寄生虫学の修士号、東京大学で健康科学博士号を取得した。

---

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

## ニック・カプール Nick Kapur



現職において日本史や東アジア史の教壇に立つ。研究テーマは近代日本と日米関係。著書『Japan at the Crossroads Conflict and Compromise after Anpo』（ハーバード大学出版 2018）は、1960 年の日米安保条約に対する大規模な抗議運動の余波で展開された日本の政治・文化・社会、そして日米同盟外交や冷戦国際システムの変容を詳述している。また、1970 年以降の中国と日本の環境政策、ジョン・F・ケネディ政権下の日米関係、1968 年の日本の明治維新 100 周年に関する研究を発表している。ハーバード大学で日本史の博士号を取得。

## 久間木 宏子 Hiroko Kumaki



現職の他、ダートマス大学人類学部でフェロー・ソサエティのポスドク・フェロー及び講師を務める。研究テーマは環境変化の中での健康と福祉をめぐる交渉である。現在は 2011 年の福島第一原子力発電所事故以降、環境衛生と規制ガバナンスに関する研究を行う。震災後の日本において、災害時のメンタルヘルスと技術革新がどのように環境修復に動員されたかを探る新しいプロジェクトを立ち上げ中である。また、福島原発事故後の幸福と復興をめぐる日常的な交渉に関する民族誌的研究は、『Cultural Anthropology』に掲載される予定。ハーバード大学ライシャワー日本研究所の研究員であり、ハーバード大学で人類学の学士号、イェール大学で東アジア研究の修士号、シカゴ大学で人類学の修士号と博士号を取得。

## トム・フォン・リ Tom Phuong Le



著書『Japan's Aging Peace: Pacifism and Militarism in the Twenty-First Century』（コロンビア大学出版 2021）では、人口動態、技術、政治、規範が日本の安全保障政策をどのように形成しているかを検証。戦争の記憶と和解、軍事技術、核不拡散に関する研究は、The Journal of Asian Studies や The Journal of Asian Security and International Affairs で発表され、Foreign Affairs、The Washington Post の「モンキー・ケージ」「ザ・ヒル」などの新聞にも掲載されている。現在は明治学院大学 PRIME 研究所とパシフィック・フォーラムの研究員を務め、過去にはフルブライトフェロー（広島）、CSIS 米韓 NextGen フェロー、AFIHJ Next Generation フェロー、笹川平和財団フェローも務めた。カリフォルニア大学アーバイン校で政治学の修士号と博士号、カリフォルニア大学デービス校で政治学と歴史学の学士号を取得。

## トム・メイソン Tom Mason



留学活動、国際教育、中国語・日本語教育学専門家。2020 年から現職。日米交流財団は、全米の大学生、特に従来恵まれていない地域出身の学部生に日本留学用の奨学金を提供し、指導やネットワーキングの機会を与える活動を行っている。2003 年、専門的な訓練を受けた中国語、日本語、韓国語を母国語とする講師を大学に派遣し、アジア言語プログラムの確立と拡充を支援する活動を行う ALLEX 財団（Alliance for Language Learning and Educational Exchange）を設立。現在までに ALLEX は、1,200 人以上の講師に語学教育法を指導し、230 以上の提携大学で数万人のアメリカ人大学生にアジア言語教育を指導するなどの実績を持つ。ALLEX 設立以前は、

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

コロンビア大学、コーネル大学、そして日本のさまざまな大学の教師を務めた。また社会起業や国際教育の分野で今も指導や講演活動を行っている。コーネル大学でアジア研究の学士号と修士号、オハイオ州立大学で東アジア言語の博士号を取得。

## 松原 実穂子 Mihoko Matsubara



現職では、サイバーセキュリティのソートリーダーシップを担う。現職以前、防衛省、パロアルトネットワークスのアジア太平洋地域担当副社長、パブリックセクター・チーフセキュリティオフィサーを歴任。また、2014年から2018年にかけて、日本政府のサイバーセキュリティ研究開発政策委員を務めた。戦略国際問題研究所（CSIS）、外交問題評議会（CFR）、ローフェア、ニューアメリカ、RUSI Journal などから頻繁に記事を発表している。2019年に新潮社からサイバーセキュリティの本を出版し、大川情報通信基金賞を受賞した。ボルチモアで開催された NIST Cybersecurity Risk Management Conference 2018、サンフランシスコで開催された RSA Conference 2018 および 2019、シンガポール国際サイバーウィーク 2019 および 2021、ブリュッセルで開催された EU Cyber Forum 2019、エストニア・タリンで開催された Cycon 2015 および 2019 など、さまざまな国際会議で講演を行っている。パシフィック・フォーラム（ホノルル）の非常勤研究員、国際戦略研究所のアソシエイト・フェローを兼任。フルブライト・プログラムを通じ、ワシントン DC のジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院で修士号を取得。

## チャールズ・T・マクリーン Charles McClean



現職以前は、ミシガン大学日本研究センターのトヨタ招聘客員教授やハーバード大学日米関係プログラムのポスドク・アソシエイトを務めた。研究テーマは、政治と年齢、インスティテューション、レプレゼンテーション、社会政策、日本社会の関わり。『Comparative Political Studies, Nature Medicine, Political Psychology, PS: Political Science & Politics』などに政治学や公共政策の分野で寄稿。現在、『シルバー・デモクラシー：高齢化する日本における若者代表』という本を執筆中で、民主主義国家における若者の代表権不足の原因と結果を探っている。タフツ大学で国際関係学と日本語の学士号（summa cum laude）、ハーバード大学で東アジア研究の修士号、カリフォルニア大学サンディエゴ校で政治学の博士号を取得。

## 森本 涼 Ryo Morimoto



人類の過去及び現在の核との関わりが惑星に与える影響が研究テーマ。福島県沿岸部を中心とした研究活動を通して、核物質や他のすぐには認識できない汚染物質を、後期産業時代やポストフォールアウト時代に生きることを意味の一部として考えるための空間、言語、アーカイブを作り出している。『The Nuclear Ghost: Atomic Livelihood in Fukushima's Gray Zone』（仮題、カリフォルニア大学出版）を執筆中。本書は、国際交流基金とトヨタ財団の助成による福島県沿岸部での複数年にわたる民族学的フィールドワークに基づき、被曝の閾値が個人や社会、政治、科学によってしばしば一貫性なく決定されてしまう福島沿岸部で、低線量被曝を経験し代表するという苦難を探求している。2022年から2023年は、科学技術による豊かな社会づくりに向けた日米の連携、特に老朽化した原子炉の廃炉と高齢化という日本や世界の喫緊の課題に対し、遠隔技術（ロボット）の開発を研究する予定。ブランダイス大学にて人類学の博士号を取得。

---

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)

## シンディ・スターツスリダラン Cindi SturtzSreetharan



現職では、人類進化・社会変動研究科で人類学とグローバルヘルスの講義を担当。前職の12年間は、カリフォルニア州大学サクラメントで教壇に立った。日本語、ジェンダー、体重の偏見に関する研究で、全米科学財団、KCCJEE、日本学術振興会、国際交流基金、安倍フェローシップ（社会科学研究評議会）からのフェローシップを受領。日常的な言語習慣が体重の偏見にどのように関わっているかを研究する。最近ではチームによる比較プロジェクトとして、日本、米国、サモア、パラグアイの人々が、公的指導者や周囲の人々からの反脂肪メッセージにどのように対処し、対応しているかについて、共通の苦闘と地域の違いを明らかにする「Fat in Four Cultures」（トロント大学出版）を出版した。カリフォルニア大学デービス校で言語人類学の博士号を取得。

以上

---

### この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: [press@jpf.go.jp](mailto:press@jpf.go.jp)